

【5】実践事例

— 授業づくり —

〔1〕 中学部の授業づくりについて

中学部では昨年度、コミュニケーションのねらいにせまるための授業づくりの観点を設定し、実践に取り組んだ。その成果や反省をもとに、今年度も下記に示す授業づくりの観点到ってさらなる実践を重ね、コミュニケーションの力をつけることへつながったかどうか、検証することとした。

〈中学部の授業づくりの観点〉

(1) 単元や題材の設定及びその配置

- 目標や内容が、繰り返しや発展で掘り積み上げられ、確かな力となる単元や題材の設定及びその配置を工夫する。
- 生徒の思いや考えが吸い上げられ、コミュニケーションを豊富に展開できる単元や題材を設定する。
- 年間を通して、学級・学部外、さらに校外の人々とのコミュニケーションの機会が持てる単元構成にする。

(2) 指導者の関わり方

- 指導者は、まず生徒の活動の様子を見守り、生徒の意図や思いを理解した上で、適切に学習活動に組み込み展開していく。
- 指導者も生徒の仲間の一人として、いっしょに楽しんで活動する。
- 互いが関わり合おうとするあたたかく楽しい雰囲気作りをする。

(3) 個を生かす指導の工夫

- 集団としての良さを大切にしながら、個を生かせる多様なグループ編成の工夫をする。
 - ・学級（学年）単位
 - ・学級を解いた縦割り
 - ・発達課題別
 - ・学習課題別
- 全体、グループの課題に向かいながらも、個に応じた適切な課題の設定をする。
- 個々の興味・関心を持続させ、豊かなやりとりのできる場面設定や、個に応じた教材教具の工夫に努める。

(4) 家庭との連携

- 学校での学習が家庭でも話題にされ、次の活動への意欲につながるように、学校での様子を絶えず家庭へ知らせる。
 - 事前学習や準備に家庭でも取り組ませ、それを授業に生かす。学習したことをまた家庭で活用し、生きた力としていく。
- (4)の家庭との連携は、特に社会化を積極的に図ろうとする中学部では大切な観点となる。

次に、授業づくりの主な実践の場とした「生活単元学習」「課題学習」「日常生活の指導」の実践について述べる。